

— 目 次 —

■農林業特集

- 熊本県農業計画のあらまし……………10  
—総論と地帯別計画—
- 熊本県農業計画の策定に寄せて……………30  
満永正昭 小山内懋
- 熊本県農業の振興について……………33  
増田義孝 高森 誠  
中上 誠 佐藤明雄
- 農畜産物の流通加工対策
  - I 熊本県畜産流通センター・ガイド……………46
  - II 甘夏みかん=日本一のふる里……………49
  - III 生産日本一のい業と流通……………51
  - IV 新鮮な野菜を消費地に……………54
- 農業生産基盤整備の現状と今後……………56
- 農村地域への工業導入計画と  
その現況及び展望……………60
- これからの農村の役割りと環境整備……………64
- 集団産地化をめざす樹芸林業……………68

■海外レポート……………44

■〈この人と30分〉人生は和なり  
本田弘敏……………71

■〈甘言・辛言〉中島良吾……………75

■熊本県の外国貿易・遊仲勲……………76

■グラビアページ

- 〈ふるさと心の心〉熊本バンド…………… 3
- 第11回農林漁業祭など開く……………37
- 仕上げを急ぐ氷川ダム……………38
- 郷土をみどりに……………39
- カラー 熊本……………40
- 熊本丸竣工……………42  
—県立水産高校実習船—
- 九州青年の船 東南アジア研修の旅から……………77
- 春の花壇お目見え…………… 78

随筆欄…………… 6

阿部次郎・久保田義夫・米光栄子  
大仁田喜義・後藤俊作・木下昌子



上近くにある鐘掛松  
(当時の松は枯れたため植えかえられている)

▶花岡山より熊本市街を望む(上は明治二十年頃・下は現在)



熊本バンド

人は心魂を傾けて自らの使命を果しているときには、その成果が後世にどう評価されるかなど考えてもみない。

米国南部の退役将校L・Lジェーンズの場合もそうであった。

ジェーンズが熊本洋学校の英学教師として着任したのは、明治四年八月のことである。彼は宣教師として熊本の土を踏んだのではない。だから、日本の若者たちに学校教育を通して西欧の近代精神を理解させようとは志したが、後年、彼の教え子たちが日本におけるキリスト教の先駆的な役割を担うことになろうとは、彼も思い及ばなかったであろう。謹厳、剛直なジェーンズの自学自修を旨とする徳育教育はたちまち生徒たちの心をとらえた。髻(まげ)を解き、刀をはずしたばかりの青年たち―激動の時代の中で必死に日本の将来を考えようとした熊本の青年たちはよくジェーンズの期待にこたえた。

それから数年を経た明治九年一月三十日、熊本洋学校の生徒約四十人が花岡山の頂きにある鐘掛松の下に集まり、「奉教趣意書」を朗読し、キリスト教によりこの国の人を救おうと誓いあった。のちにこれを「熊本バンド」又は「花岡バンド」と呼び、日本におけるプロテスタントの源流となった。

しかし、この挙は当時の世間には受け入れられなかった。青年たちはやがて迫害を受け、その多くは同志社に移り教導の道をあゆみ、熊本洋学校も閉鎖されるに至った。そして、ジェーンズもまた熊本を去らざるを得なかったのである。

維新のような激動の時代に自らの思想を築き、行動によって証しすることは決して容易ではなかったろう。先覚の道はいつも少数であり、ひとり目覚めて生きることは、人生において最もつらいことの一つなのだ。

ともあれ、およそ百年前の今朝もこのように厳しい寒気が花岡山の頂きに満ちていたであろうか。

眼を凝らせば、暁の光のなかに白川の流が見え、熊本平野を埋める家並みがみえる。すでに、中天の纖月は影を消し、遠く阿蘇連峰の右のあたり太陽がのぼり始めた。

……わたしはよい羊飼である。よい羊飼は羊のために命を捨てる………かつて、洋学校生徒横井時雄が読みあげたように、焚火を囲んだ早天祈禱の団がヨハネ伝第一〇章を朗読する。

私はふとサンデーでその生涯を閉じたジェーンズに思いを馳せる。私は彼に問うてみたい。遠く海を距てた熊本の町の静かなたたずまいや、気魂に満ちた熊本の青年たちの顔が、彼の老境の夢の折りふしに立ちあらわれなかったであろうかと。